

第111号/ ふじのくに静岡県

消防学校 ニュース



令和2年11月号

救助科(第37期)

令和2年10月5日(月)～10月30日(金)の約1か月間、専科教育救助科を実施し、県内16消防本部(局)から40人が参加しました。

救助業務従事者として専門知識と高度な技能・技術を備え、安全管理を図りつつ応用力を発揮できることを目標に、厳しく、密度の濃い教育訓練を実施しました。県内消防本部(局)の救助隊員に訓練指導をお願いし、校外研修では清水港外港の埋立地や民間の施設なども訓練に使用させていただきました。御協力いただいた方々には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

(担当教官コメント)

今期は21歳～38歳と年齢層及び経験値が幅広かったですが、基本訓練から最新の知識、救助技術を習得していく中で、序盤から全体にチームビルディングを意識する雰囲気がみられました。常に主体性を持ち、訓練だけでなく準備から片付けに至るまで積極的に行動し、さすが各所属から選抜された救助隊員であり、私にとっても見習うべき姿を見させていただきました。救助科で学んだことをきっかけに、今後益々情報共有し、勉強し、訓練企画し、活躍されることを期待しています。

教務課主査 岡寄 和臣(志太消防本部から派遣)



「救助科37期スタートアッププログラム」



「都市型ロープレスキュー」



「NBC災害対応訓練」



「交通救助」



「都市型検索救助」



「震災時対応救助」



「土砂災害対応救助①」



「土砂災害対応救助②」



「火災救助Ⅱ」



「実火災体験型訓練」



「校外研修」 あいおいニッセイ同和自動車研究所



「現場指揮要領」

初級幹部科(第22期)

令和2年10月12日(月)～10月23日(金)の実質10日間、初級幹部科を開催し、県内10消防本部から組織の要を担う13人が参加しました。

人事業務管理、消防時事、安全管理等に係る講義や課題研究発表、大規模災害、多数傷病者災害を想定した指揮訓練などの教育訓練を行いました。

また、10月14日(水)には静岡県立沼津西高等学校から村下和之先生を講師として迎え、『教育技法について』の御講義をいただきました。村下氏は同校サッカー部の監督、また、国体少年サッカー静岡県代表の指導スタッフとして御活躍されており、その経験、体験を教員、指導者及び教育者の立場からお話いただきました。

(担当教官コメント)

所属の幹部候補として入校された皆様には、幹部としての心構え、知識、基本的な技術を習得していただきたいと思いカリキュラムを構成しました。特に指導、監督的な立場としての考え方、伝え方は、課題研究を通じて多くのことを吸収できたのではないかと思います。

今回の初級幹部科で得た刺激、知識及び技術を所属に還元し、今後の益々の御活躍を期待しています。

教務課主査 竹ノ内 創(駿東伊豆消防本部から派遣)



初級幹部科の皆さん



多数傷病者災害 RDIG

多数傷病者対応訓練(初級幹部科、救助科)

令和2年10月22日(木)初級幹部科と救助科が合同で訓練を開催しました。

この訓練は、多数傷病者発生時の指揮要領、部隊運用及び活動要領(トリアージ含む)を実施検証することで、災害発生時の対応能力の向上を図ることを目的に実施しました。

(担当教官コメント)

初級幹部科学生は、指揮隊、先着救急隊、消防本部役に配置し、本訓練の重要な役割を担いました。救助科学生は、この日までに支援隊より教わった車両破壊や重量物除去といった救出活動、トリアージ、指揮支援活動等を実施しました。アンケート結果からも失敗や反省材料が多々あったようですが、それぞれの科における行動目標に向かって課題が見えたことは財産になると思います。これからも機会があれば、様々な合同訓練を企画していきます。

教務課主査 竹ノ内 創(駿東伊豆消防本部から派遣)

教務課主査 岡寄 和臣(志太消防本部から派遣)



消防団員 初級幹部科（第12期）

令和2年10月24日（土）～25日（日）の2日間、消防団員幹部教育初級幹部科を開催し、班長の階級にある者を中心に29人が入校しました。初級幹部としての職責の自覚、消防団運営に必要な規律、安全管理などを主眼とした教育を実施し、真剣に取り組んでいただきました。

（担当教官コメント）

今回の教育訓練は、初級幹部として団員の安全を確保し、適切な現場指揮、災害活動ができる知識及び技術を習得することを目的として行いました。また、外部講師によるコンプライアンスの講話や防災指導要領の講義を通じて、地域住民のリーダーとしての気質、指導力を養っていただきました。講義、実科訓練に取り組む姿勢は積極的であり、災害に立ち向かう同志としてとても心強く感じました。

教務課主査 埴淵 茂樹（浜松市消防局から派遣）



【県】新規採用職員研修(危機管理講座)

令和2年9月30日(水)～10月2日(金)

消防職員の初任教育が修了すると、消防学校では県の新規採用職員研修が行われます。今年も3日間の日程で行われ、今年度静岡県に採用された職員(昨年度の研修未受講者を含む)236人が訓練にのぞみました。この研修は、大規模地震をはじめとする様々な危機事案対応の中心となる県職員が、自らの役割・責任を自覚することを目的に毎年行われており、研修生は各種訓練に精一杯取り組みました。

(担当教官コメント)

災害はいつ発生するかわかりません。この研修が新規採用職員の危機管理意識を高めるための一助となれば幸いです。

教務課主任 土屋 裕一(県職員)

規律訓練



担当教官にかしら一中!

濃煙避難訓練



ケホケホ...

搬送訓練



屋内消火栓・放水訓練



体力錬成(山へランニング)



あともう少しだ...



消大レポート(森下教官)FDMC救急科第82期

森下教官(御前崎市消防本部から派遣)が9月23日(水)から10月22日(木)まで消防大学校(東京都調布市)の「救急科」の教育訓練を受けてきました。詳しくは下記のレポートをご覧ください。



通常点検をうける森下教官(左端)



多数傷病対応訓練コントローラー役を実施



技能訓練時の様子



救急科第82期全体写真(47人)

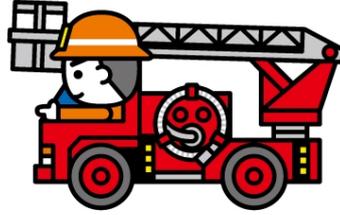
消防大学校救急科第82期を終えて・・・

令和2年9月23日、新型コロナウイルスが収束しない中、消防大学校救急科第82期が始まりました。私の救急科のイメージは指導的立場の救命士の養成が強く、救急関係に特化したものだと思っていましたが、研修を終えてむしろ幹部教育が主だという印象が残りました。

入校時の抱負で、私は、指導者としての心がまえを再認識することをあげました。数年前から所属では指導者として業務を行っていましたが、法律関係、労務管理、そして教育技法などは、勉強不足のうえ不安を感じていました。今回のカリキュラムからは、私の苦手意識、不安な部分を勉強できたと思います。特に参考になったのは技能訓練です。訓練の企画から運営を学習する機会はなく、シミュレーションを実施するうえで、一つのストーリーではなくセカンド、サードストーリーを考えながら、訓練を進行していくことの難しさを感じました。また、学生同士の研究発表の中でも参考になる話が聞け、皆さんの意識の高さは非常に刺激になり、見習いたい点を多く発見することができました。所属の指導的立場の救命士として、そして学校教官として十分に心がまえを再認識することができたと感じました。そして今回の研修で一番の収穫は、同じ悩みを抱える同志と出会えたことです。最年少34歳、最年長49歳と年齢や階級、所属での置かれている立場、全国の多種多様な救急救命士が一度に集う機会は、エルスタ以外はないと思います。仲間たちの学習に臨む態度、意識の高さ、そして何よりも初対面なのに自然に気を配り、お互いを尊敬しあう姿勢に感銘を覚えました。この出会いは一生の宝物として私の消防人生に生かされると思います。

最後に、この研修に参加するにあたり、大勢の方々の支えがあった事を忘れず感謝の気持ちを持ち、学んだ知識と技術を学校教育や職場へ還元していきたいと思っています。

教務課 主査 森下 善弘(御前崎市消防本部から派遣)



今年も残りわず
か！頑張ります。
次号もお楽しみに
に！！



塩崎ぜつ校長

ワンチョット(チョイネタ)

コーナー 今月のつぶやき

人間ドック 油断大敵、節制しよう

毎年、秋に人間ドックを受けている。

病院嫌いで、小心者の私は、いけないこととは知りながら、人間ドック前の数日間だけは、

少しでも良い検査数値が出るように、時限のプチ節制生活を送る。

適度の運動、減塩の食生活、早めの就寝等健康活動に勤しむ。

夕食後の散歩、好物のフライにかけるソースはチョビット、9時半就寝等、涙ぐましい努力？である。正確には、ズル行為ではあるが…

しかし、結果は、今年も複数の項目でピンチが発生した。折角、節制したのに…人間ドックが終わり、当然に引続き節制が必要ではあるが、

「今日だけはいいか？」と寝酒を飲んでしまう。

ホットウイスキーを2杯、おつまみにチーズをちょっと。

「一人前の消防人」を目指している人間は、これではいけない。

「これからは、自分に厳しく、表裏なく、継続的にしっかりと節制しよう」と他人に悟られないように、こっそり心に誓おう。

いつもながら、消防に関係ないネタですみません…



救助科の校外研修を視察する校長（左端）



支援隊の隊長と



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1

☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞご覧ください。

静岡県消防学校

検索

